

# 琉球病院 Monthly



独立行政法人  
国立病院機構 琉球病院  
National Hospital Organization RYUKYU Hospital

Vol.88  
2020. May

発行者 琉球病院事務部長  
花木 成信

## 基本理念 この病院で最も大切なひとは医療を受ける人である

### 新型コロナウイルス感染防止のための対策について

厚労省からの指示により、新型コロナウイルス感染防止のための特例として、再診の患者様については希望により電話での処方箋発行依頼を受けることが可能となりました。このため、当院においても希望する患者様には、電話連絡で処方箋を発行し、希望する薬局へFAXで送付することが可能です。症状変化に対応する医薬品の処方を電話診療で可能とするため来院する必要もなく、通院にかかる時間や、病院での待ち時間などを考えなくて済みます。

コロナウイルス感染拡大を防止するため、ぜひ活用をご検討ください。  
外来師長 宮城尚子

### 新任医師紹介

仲里 美希 先生



琉球大学医学部附属病院より4月に赴任しました仲里と申します。「精神科医師になろう」と決めた高校生の時の自分に誇れるよう、様々な疾患を持つ患者様と向き合う毎日です。沖縄県の精神科医療に少しでも貢献するため、頑張っていきたいと思っております。

酒井 健一郎 先生



4月より勤務しております酒井健一郎と申します。福岡県出身、広島大学卒で、九州大学病院等で研修後、3月まで麻酔科医でした。基本的な全身管理は得意な一方で、病棟業務は不慣れでご迷惑をお掛けするかとありますが、何卒よろしくお願い申し上げます。

畑本 章吾 先生



今年度より赴任しました畑本章吾と申します。沖縄在住5年目となり、うちなーぐちにも慣れてきました。より良い医療を提供できるよう頑張りたいと思っております。よろしく申し上げます。

### ● 地域医療連携室だより

琉球病院では、受診相談や地域、行政、他医療機関からの窓口として地域医療連携室を設置しております。一般精神をはじめ、アルコール依存症（アディクション全般）、治療抵抗性統合失調症治療薬で効果のあるクロザピンによる治療、認知症、児童思春期外来といった様々な疾患をお受けできる診療体制を整えております。また、中北部圏域を中心とした地域の皆様によりよい質の医療を提供し、適切な対応ができるよう充実した取り組みを行い、地域のニーズに応えられるよう日々努力していきたいと思っております。初診はじめ、受診については予約制となっております。

ご相談はお気軽に地域連医療携室までお問い合わせください。

### 院長

ふくじ やすひで  
福治康秀



1964年生まれ、那覇市出身、首里高校卒。1993年琉球大学医学部卒、琉球大学医学部精神神経科入局。95年那覇市立病院精神科、96年琉球大学精神神経科、2009年琉球病院精神科部長、2010年副院長を経て2014年琉球病院長に就任。  
日本病院・地域精神医学会理事。

### 診療科

- ・一般精神科
- ・こども心療科
- ・物忘れ外来
- ・アルコール依存症等外来

### 病床数

416床

- ・精神科病棟 151床
- ・認知症 56床
- ・アルコール 54床
- ・児童思春期ユニット 4床
- ・重症心身障がい 90床
- ・医療観察法 37床



路線バス 那覇BS(下り)または名護BS(上り)より沖縄バス[77番名護東線]浜田バス停下車徒歩3分

自動車 那覇市から40分沖縄自動車道金武インターから名護向け5分

### お問い合わせ

時間 8:30 ~ 17:15  
(土・日・祝日以外)  
TEL 098-968-2133(代)  
内線 231・234

### 地域医療連携室(直通)

TEL 098-968-3550  
FAX 098-968-7370

## 治療抵抗性精神疾患への医療

医師 木田 直也



### クロザピンの治療状況

2010年2月から治療抵抗性統合失調症の患者様に対して、クロザピン(CZL)治療を開始し、全症例は延べ304例になりました。2020年3月のCLZ導入は3例で、このうち2例は他の病院からご紹介を頂きました患者様(入院1例、通院1例)でした。CLZ治療前には暴力行為や多飲水などの問題行動のために隔離や身体拘束が必要な患者様も多くいらっしゃいましたが、CLZ継続例では問題行動も少なくなり、隔離や身体拘束は解除出来ています。週に3回のCLZ専門外来も行っていますので、患者様のご紹介をお願いいたします。当院でのCLZ治療や沖縄県での地域連携の実際については、ノバルティスファーマーの医療関係者サイトのクロリザル/クロリザルのご使用にあたって(<https://drs-net.novartis.co.jp/dr/products/product/clozaril/guide/>)でも動画が公開されていますのでご参照ください。

## こども心療科

心理療法士 仲間 信也

県内でもコロナウイルスの感染拡大が続いています。こども心療科でも、感染リスクを最小限にしながら、医療的支援を必要とする方への診療機会を維持するための診療体制について、日々検討を重ねています。

臨床的な実感として、家庭外(園や学校等)に不適応やストレスがある患者様については、休校措置によって安定した経過を辿る割合が多いのですが、家族間の関係性に課題のある患者様については、家庭内で過ごす時間が長くなることで問題発生リスクが高まっている印象を受けます。通常、家庭内に課題のあるケースに対しては、学校や福祉事業所等、通所先の支援機関が患者様やご家族の様子を把握し、必要な支援に繋げていますが、休業・外出自粛要請が出されている状況下では、家庭内の様子が捉えにくいという課題があります。

コロナウイルスの感染が収束するまでの間、各機関とも感染対策しながらの業務体制になるため、限られた支援資源の効果的・効率的な活用が重要になってきます。こども心療科としても、関係機関と積極的に連携を図りながら、一丸となってこの局面を乗り越えていけたらと考えています。

## 認知症医療

東Ⅲ病棟師長 平良 恵

認知症の症状には、行動心理症状(BPSD/周辺症状ともいう)があります。暴言や暴力、介護拒否や徘徊、異食、帰宅願望などがあり、不安や不快な状態に置かれたときに、出現することが多いといわれています。

当病棟では、行動心理症状の対応のひとつに、ユマニチュードを取り入れています。ユマニチュードとは、知覚・感情・言語による包括的コミュニケーションに基づいたケア技法です。フランス語で「人間らしさ」を意味し、「人間らしさを取り戻す」ということも含まれています。言語的コミュニケーションが難しい認知症の患者さんに対しても、ケアを通じて信頼関係を築くことができます。これからも、退院後の生活を見据えて、安心した療養環境が提供できるよう取り組んでまいります。

## 重症心身障がい医療

療育指導室長 金城 安樹

今回は3階のテラスで行っている園芸活動の様子をお伝えします。利用者さんに土に触れてもらったり、水かけ様ホースを支援者と一緒に握り水かけする等の活動を行っています。とまと、ねぎ、ナス、ピーマンの苗・野菜が大きく育っていく様子を支援者と観察しました。また、収穫したての生野菜を美味しく食べられる利用者さんもおられました。外出自粛が求められるなか、重症心身障害病棟においても面会禁止、各種行事や外出等の活動制限が余儀なくされますが、棟内で楽しめる活動を工夫したいと思えます。はやく外でいっぱい遊べる日がくるといいなあ。

## アルコール・薬物依存医療

北I病棟師長 長 祥子

人は不快なことがあると気分転換の行動をしようと思いがちですがこの行動は普通のことです。しかし依存問題を抱える方は、危険な方法を選択したり過剰にし過ぎてしまい、ご自分だけでなく周囲の人々にも悪影響を与えてしまいます。新型コロナウイルス感染症対策により様々なものの制限や自粛を求められ過ぎづらい状況になっています。ストレスを抱えている方がいらっしゃるのではないのでしょうか。自分の中に留めずに誰かに相談したり今の状況で出来る安全な方法で解消しましょう。北I病棟では電話相談を行っています。ご活用ください。

## 包括的地域精神医療

訪問看護師長 嘉手苅 美智留

平成30年度年度別訪問看護件数は8,905件でしたが、平成31年度の訪問看護件数は、9,147件で9千件を突破し、前年度より242件増加していました。しかし、3月新型コロナウイルス感染拡大の影響で、訪問看護をキャンセルする利用者が増え始めました。作業所の閉鎖や、グループホームに入所している利用者も外来受診は継続するが、訪問看護を見合わせてほしいとの連絡を受けることもあり、利用者の訪問看護の機会が次第に減少していく傾向になっていきました。

訪問できない利用者には看護師が電話による近況や症状、内服状況の確認を行っています。利用者からは、「声を聞くと安心する」「電話による対応を続けてほしい」などの声も聞かれ、本人家族とも継続的な関わりを絶やさないと大切さを実感しています。今後、利用者・ご家族共に安心できるよう訪問看護でできることを考えながら支援を続けていきたいと思っています。

## 臨床研究部活動状況

心理療法士 前上里 泰史

令和元年度の当院の臨床研究実績についてご報告いたします。今年度の論文数は8本(うち厚生労働省科学研究4本)、学会発表27演題ありました。前年度とほぼ同数でした。厚生労働省科学研究では、クロザピンに関する研究(医師 木田直也)、医療観察に関する研究(副院長 大鶴卓)の研究が進み、新たな政策に寄与しております。ほか、看護、コメディカルからも多くの臨床研究がありました。今後、各分野の取り組みをご報告させていただきます。

今年度は新型コロナウイルスの影響により、多くの学会等が延期・中止となり、臨床研究や診療にも影響が出始めております。感染の終息とみなさまの生活が少しでも早く元に戻るようお祈り申し上げます。